

Excel連携アドイン
V2.4
導入・評価手順書

2020/7/1

NCSサポート&サービス株式会社

目次

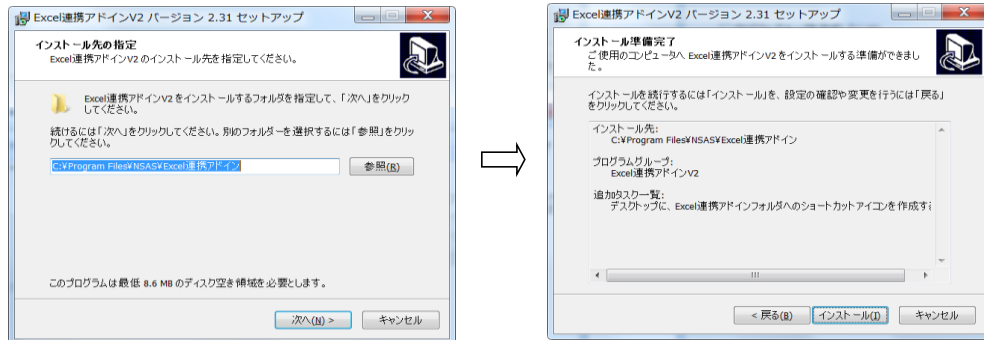
1. Excel連携アドイン 導入手順	3
1. 1 アドインのインストール	3
1. 2 アドインのアンインストール	3
1. 3 Excel VBAでの参照設定	4
2. Excel連携アドイン 評価手順	5
2. 1 評価用サンプルアプリによる動作確認の準備	5
2. 1. 1 kintone環境の準備	5
2. 1. 2 アプリの確認	5
2. 2 楽々Excel連携による業務の作成	5
2. 2. 1 アプリケーションIDと接続パラメータの生成	5
2. 2. 2 アプリのフィールドコードやタイプの取得	7
2. 2. 3 連携対象シートの生成	8
2. 3 動作確認	9
2. 3. 1 kintoneデータの取得	9
2. 3. 2 kintoneデータの登録・更新	10
2. 4 その他補足	11
2. 4. 1 業務用ブックの切り出し	11
2. 4. 2 ライセンスの確認	11
2. 4. 3 VBAを使った高度な連携プログラムの開発	12

※ このドキュメントは、Excel連携アドイン Ver 2.4 以降に対応しています。

1. Excel連携アドイン 導入手順

1.1 アドインのインストール

アドインはお使いのPCにインストールする必要があります。
インストールするには、インストーラ形式のEXEファイルを実行します。
(実行には管理者権限が必要です)



必要事項を入力し、「次へ」で進めてください。
※インストール実行時に、PC上で起動しているExcelがあれば、全て終了してください。

インストール先のフォルダは、通常の場合、以下となります。
特に支障のない限り、そのまま変更しないでインストールしてください)
(標準と異なるフォルダへインストールした場合、便利ツールが動作しない場合があります)

【32ビット版Windows】 C:\Program Files\NSAS\Excel連携アドイン
【64ビット版Windows】 C:\Program Files (X86)\NSAS\Excel連携アドイン

このフォルダーに、以下のファイルがインストールされます。

- | | |
|----------------------------|-----------------------------|
| ①kintoneSubsV2.xlam | アドインの本体です。Excelから参照します。 |
| ②導入評価手順書V2.4.pdf | このファイルです。 |
| ③楽々Excel連携ツールV2.4.xlsm | Excel連携を簡単に作成できるツールです。 |
| ④楽々Excel連携ツールV2.4(使い方).pdf | 楽々ツールの使い方を説明した資料です。 |
| ⑤unins000.exe、unins000.dat | 不要になった場合のアンインストールです。 |
| ⑥開発者向け資料 | 以下の開発者向け資料のあるフォルダです。 |
| ⑦アドインマニュアルV2.4.pdf | 設定シートの書き方を詳しく説明したマニュアルです。 |
| ⑧設定シートV2.4原紙.xlsx | 設定シート(一覧・単票)の原紙です(マクロ無)。 |
| ⑨連携アドイン評価用サンプル.xlsm | 開発者向けのVBAを含むExcel連携のサンプルです。 |
| ⑩連携アドイン評価用テンプレート.zip | 上記で使うkintoneアプリのテンプレートです。 |

この他、メールにてライセンスキー通知書が送付されます。

※試用ライセンスは1ヶ月間有効です。ライセンス契約することで、同じキーが継続して1年間ご利用できます。

※ライセンスキーは、同じkintoneのサブドメイン内であれば、複数のPC、複数の設定シートで、同じものが利用できます。

※Ver.1.38以前の旧アドインとは互換性がありません。旧アドインをお使いの場合はそのまま旧アドインをご利用ください。V2.4のアドインと併用は可能です。

※V2.31以降は標準のインストールフォルダ名が変更されています。V2.30以前のアドインをお使いの際は注意が必要です。すでに旧バージョンのアドインがインストールされている場合、同じフォルダへ追加インストールされるので、以前の参照設定のままで利用可能です。

※新フォルダを使う場合は、旧バージョンをアンインストールしてからインストールしてください。

1.2 アドインのアンインストール

[スタート]→[すべてのプログラム]→[Excel連携アドインV2]
→[アンインストールV2]を実行してください。

または、コントロールパネルのプログラムのアンインストールから実行してもかまいません。

※アンインストール実行時に、PC上で起動しているExcelがあれば、全て終了してください。

※アドインをバージョンアップする場合は、必ず既存のアドインをアンインストールしてからインストールしてください。

(Ver.1.38までの旧アドインとVer.2.0以降の新アドインは共存可能です。旧アドインをアンインストールしなくても、新アドインをインストールできます)

※V2.2以後の新アドインはV1.38以前の旧アドインと互換性がありません。

V1.38以前の旧アドインをお使いの場合は、旧アドインはアンインストールしないでください。

1. 3 Excel VBAでの参照設定

ExcelのVBAからアドインを利用する際に、参照設定が必要です。
これはアドインを利用するブックごとに設定します。

アドインを利用するExcelブックから、Visual Basic Editorを起動します。
まずは、楽々Excel連携ツールで確認してみましょう。

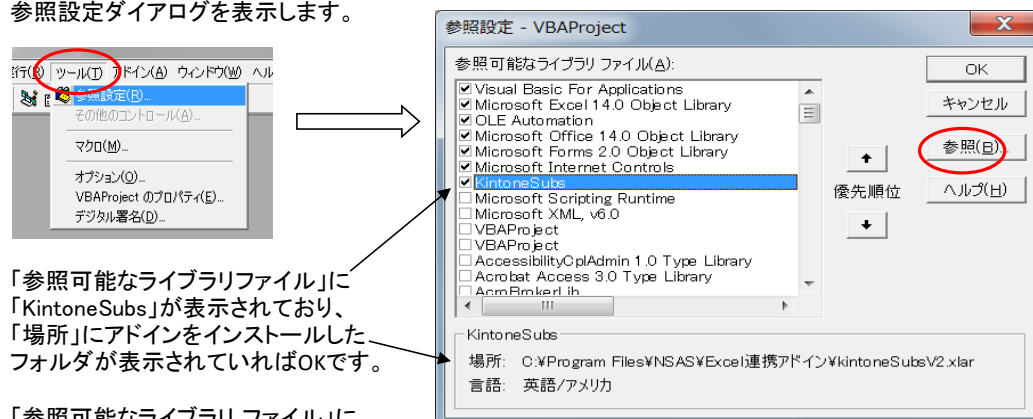
Excelの「開発」タブを開きます。

※開発タブが表示されていない場合は、ファイル→オプション→リボンのユーザ設定、で開発を追加してください。



ここをクリックしてVisual Basic Editor を起動

アドインを利用するExcelから、Visual Basic Editor を開き、メニューの「ツール」→「参照設定」で、参照設定ダイアログを表示します。



「参照可能なライブラリファイル」に「KintoneSubs」が表示されており、「場所」にアドインをインストールしたフォルダが表示されていればOKです。

「参照可能なライブラリ ファイル」に「KintoneSubs」が表示されていない場合は、「参照」ボタンでインストール先フォルダを参照し、「kintoneSubsV2.xlam」ファイルを選択してください。

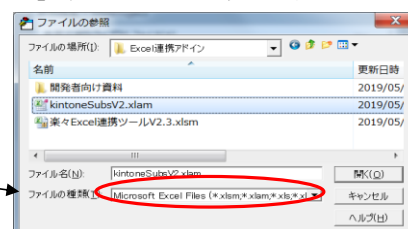
インストール先フォルダは、アドインをインストールしたフォルダです。（標準では以下となります）

【32ビット版Windows】 C:\Program Files\NSAS\Excel\連携アドイン

【64ビット版Windows】 C:\Program Files (X86)\NSAS\Excel\連携アドイン

「参照可能なライブラリファイル」に、「参照不可: kintoneSubsV2.xlam」と表示されている場合は、アドインのフォルダ参照が間違っています。チェックはそのまま、「参照」ボタンで正しいインストール先フォルダから選択してください。「参照不可」が消え「KintoneSubs」が表示されればOKです。

※アドインを参照するとき、「ファイルの参照」ダイアログの下方の「ファイルの種類」を、初期表示の「タイプライブラリ (*.olb;*.tlb;*.dll)」から「Microsoft Excel Files (*.xslm;*.xlam;*.xls;*.xla)」に変更しないと、kintoneSubsV2.xlamが表示されませんのでご注意ください。



※参照設定で表示されるアドイン名は新旧アドインとも同じ「kintoneSubs」になります。
Ver.1.38以前の旧アドインと共存させている場合は、「参照」で選択するアドインファイル名が「kintoneSubs.xlam」が旧アドイン、「kintoneSubsV2.xlam」が新アドインとなるのでご注意ください。

※上記のインストール手順は一例です。独自のアドイン運用ルールが定まっている場合は、それに従ってください。

【アドインの動作環境】

OS: Windows 8.1 以上のWindows OS （32ビット版、64ビット版どちらでも可）

（動作保証は日本語OSのみです。またIE11のインストールが必要です）

Office: Microsoft Office 2013以上 （アドインV2.3以上であれば、32ビット版、64ビット版のどちらでも可）

2. Excel連携アドイン 評価手順

2. 1 評価用サンプルアプリによる動作確認の準備

kintoneの環境には、いくつかの評価用サンプルアプリが最初から登録されています。
これをExcelと連携させ、アドインの動作確認とします。

2. 1. 1 kintone環境の準備

すでに貴社のkintone環境がある場合は、2. 1. 2へ進んで下さい。
kintone環境がない場合、kintoneのサイトから、「30日間無料お試し」を申し込んで、試用してください。
サイボウズ社のkintoneサイトは、<https://kintone.cybozu.com/jp/> です。
申し込むとすぐに30日間の利用ができるようになります。
※アドインを利用するには、kintoneスタンダードコースが必要です。

2. 1. 2 アプリの確認

貴社のkintone環境(試用環境でもかまいません)にログインし、アプリを確認します。
(更新権限をもったユーザでログインしてください)

通常、下記のサイボウズ提供サンプルアプリが存在するはずですが、もしも存在しない場合は、適当なアプリを新規に作成してください。

アプリID	アイコン	アプリ名	アプリ内容
2		アンケート	社内研修のアンケートです。結果のグラフ集計がかんたんにできるのがポイントです。
3		日報	日々の活動報告をするだけでなく、個人が業務や日常で得たノウハウを組織全体で共有し、活用することもできます。
4		作業依頼BOX	社内報や掲示板の管理を行っている総務に依頼をする際に登録してください。

これらのアプリにはいくつか初期データが登録されているはずですが、なければ適当に登録してください。

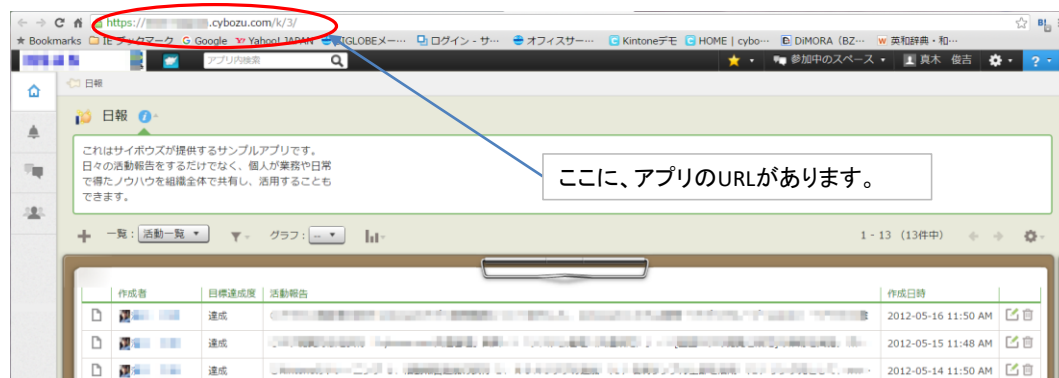
2. 2 楽々Excel連携による業務の作成

楽々Excel連携ツール(以下楽々ツールと略記)を使って、業務を作成してみましょう。
※詳しい使用法は、「楽々Excel連携ツールV2.4(使い方)」を参照してください。
※前章の「導入手順」に従って、アドインはPCにインストール済みとします。

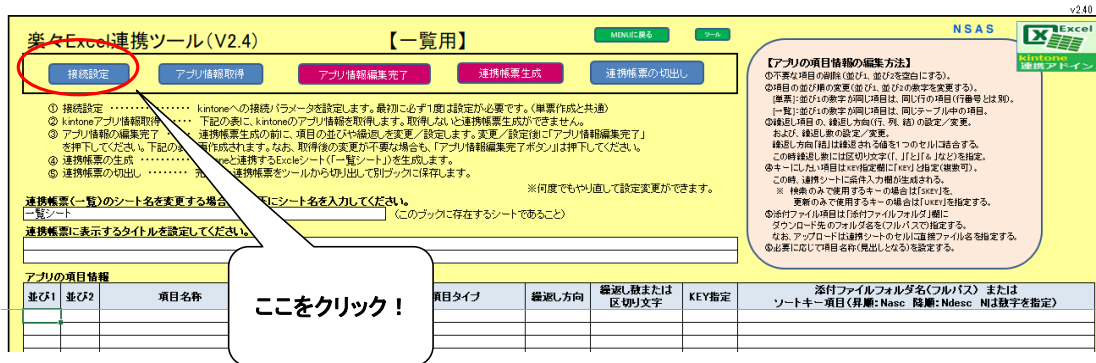
まず、添付の楽々ツールを起動します。
元のファイルを残しておくため、名前をつけて保存で、別ファイルにします。例では「日報.xlsx」としました。
一覧用と単票用がありますが、ここでは一覧用で説明します。
※単票用を使えば、業務用のExcelシートがそのままkintoneと連携できて大変便利です。
詳しくは、「楽々Excel連携ツールV2.4(使い方)」を参照してください。

2. 2. 1 アプリケーションIDと接続パラメータの生成

ブラウザでkintoneに接続し、アプリを表示してください。(ここでは「日報」を選んだとします)



楽々ツールの「一覧作成」シートを開き、上部にある「接続設定」ボタンを押下します。



このとき、万一下のような画面が表示された場合、アドインの参照設定が正しくなされていません。

1. 3 の手順に従って、楽々ツールのアドイン参照設定を確認してください。



問題がなければ、接続情報設定シートが表示されます。

接続情報設定

1. 連携するkintoneのアプリケーションIDと、サブドメイン名を設定します。(必須)

アプリケーションID サブドメイン (例: xxxx.cybozu.com)

※上のBOXに手入力するか、Internet Explorerでkintoneアプリを表示させ、「IEより取得」ボタンで取得して下さい。

※ ゲストスペースのアプリの場合は、サブドメインの最後に「#スペースID」を追加して下さい。

2.kintoneに接続するユーザIDとパスワードを設定します。(任意)
(設定しない場合は、毎回起動時に入力が必要となります)

ユーザID パスワード

3.kintone接続にBASIC認証を利用する場合は、そのユーザIDとパスワードを設定します。(任意)
※BASIC認証が必要だが、設定せずに毎回入力させたい場合は、下記のユーザID、パスワードは空白のままとし、毎回入力に「YES」を選択して下さい。

ユーザID パスワード 毎回入力

4.Excel連携アドインのライセンスキーを設定します。(必須)

ライセンスキー

5.一度に1万件以上のデータを取得する可能性のある場合は「YES」を選択して下さい。(任意)

カーソルAPIの使用 (1万件以上のデータを一度に取得する場合、カーソルAPIの使用が必要です)
 NO

6.高度な検索条件を設定できる自由検索モードを使用する場合は「YES」を選択して下さい。(任意)

自由検索の使用 (現在は一覧作成でのみ使用可能です)
 NO

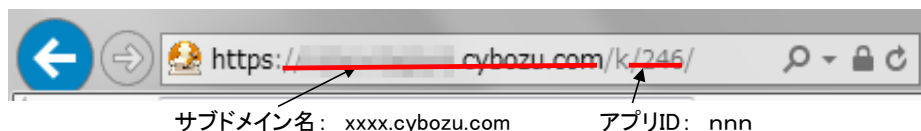
自由検索では、複数のフィールドに関わる複雑な条件をkintoneの論理式で指定することができます。
条件式は、「フィールドコード 演算子 "値"」の形式で記述し、() and or で論理式として組合わせられます。
演算子には以下のものが使用できます。(詳しくはアドインマニュアルの「検索条件自由設定」をご覧ください)
「=」(イコール)、「>」(ソートイコール)、「>」(大なり)、「<」(小なり)、「>=」以上、「<=」以下、「in」選択肢の一致
値は"" (ダブルコーテーション) でくくあり、日付はkintoneの形式 (yyyy-mm-dd) で記述する必要があります。
詳しい仕様はkintoneのWEBサイトにあるAPIのマニュアルを参照ください。

7.設定が完了したら、次へボタンを押下して下さい。

次へ

まず、kintoneのアプリケーションIDと、サブドメイン名を設定します。
先ほどの、ブラウザでアプリを表示させている状態であれば、「IEより取得」ボタンを押すだけで自動的に取得することができます。

※ ブラウザが Internet Explorer でない場合は取得できません。その場合は手動で入力が必要です。
ブラウザのURLに表示されている下記の赤線部分がサブドメイン名とアプリケーションIDです。



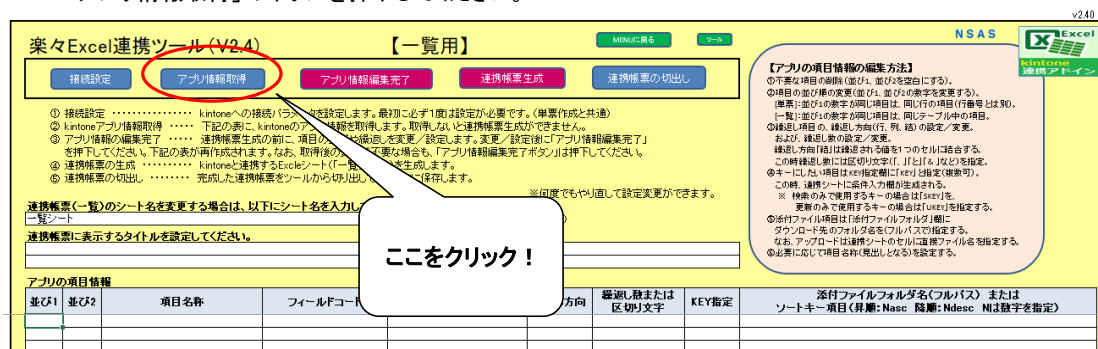
次に、kintoneへのログイン名を入力します。続いて、パスワードを入力します。
※BASIC認証の欄は、kintoneでBASIC認証を使う契約をしている場合に使用します。
通常は、空白でかまいません。

最後に、連携アドインのライセンスキーを入力します。(ここは手入力が必要です)
「次へ」ボタンを押すことで、接続設定が完了します。

※ 接続情報設定は「一覧用」と「単体用」で同じ設定が共用されます。どちらかの画面で設定してください。一度設定して保存すれば、アプリやユーザを変更しない限り、再設定は不要です。

2. 2. 2 アプリのフィールドコードやタイプの取得

つづいて、にkintoneアプリからフィールドコードやタイプなど、アプリの項目情報を取得します。
「アプリ情報取得」のボタンを押下してください。



各項目の名称、フィールドコード、項目タイプ、繰返しの設定、KEY指定、その他が初期設定されます。
以下は初期サンプルの「日報」の例です。

並び1	並び2	項目名称	フィールドコード	項目タイプ	繰返し方向	繰返し数または区切り文字	KEY指定	添付ファイルフォルダ名(フルパス) または ソートキー項目(昇順:Nasc 降順:Ndesc Nは数字を指定)
1		作成日時	作成日時	CREATED.TIME				
2		設置者	ドロップダウン	CREATOR				
3		作成者	作成者	CREATOR				
4		活動報告	文字列 複数行	MULTILINE.TEXT				
5		目標達成度	ラジオボタン	RADIO.BUTTON				
6		ジャンル	ラジオボタン_0	RADIO.BUTTON				
7		タイトル	文字列 1行	SINGLE.LINE.TEXT				
8		アイデア	文字列 複数行_0	MULTILINE.TEXT				
9		添付ファイル	添付ファイル	FILE				
10		レコード番号	レコード番号	RECORD.NUMBER	列		1	C:\temp
11		リビジョンNo.	\$revision	REVISION				

ここで、不要な項目を削除したり、連携シートでの表示順に合わせて項目の行を入れ替えたり
繰返しの数を変更したり、添付ファイルのフォルダを変更したりなど、必要な修正を行います。
(問題なければこのままでもかまいません)

- ・不要な項目の削除: 「並び1」「並び2」の欄を空白にすれば、その行の項目は削除となります。
- ・表示順の変更: 「並び1」の順番を修正すれば、項目の並びはその昇順になります。
※ 番号は連続でなくてもかまいません。10,20,30のように設定してもかまいません。
※ テーブルの場合「並び1」は同じ番号とし、そのテーブル内の項目の順番を「並び2」で指定します。
- ・繰返し項目の繰返し方向や繰返し数の変更:
チェックボックスや複数選択、テーブルや添付ファイルは繰返し項目です。その連携シート上での繰返し数と繰返し方向を設定します。(初期値は列方向で1回となっています)
※ 繰返し方向は「列」または「行」です。これを「結」と指定し、繰返し数の代わりに区切り文字を入力すれば、1つのセルにデータを結合することができます。
- ・KEY指定: 検索条件とする項目に「KEY」を入力します。また更新する場合の、レコードを識別する項目にも「KEY」を指定します。(複数設定可)
※ 検索のみで使い、登録/更新の識別には使わないキー項目の場合は「SKEY」と、登録/更新のみで使い、検索条件にはしないキー項目の場合は「UKEY」と指定することが可能です。
- ・添付ファイルフォルダ名: 添付ファイルをダウンロードするフォルダ名をフルパスで指定します。
- ・ソート指定: 並び替えのキーとなる項目に、番号+asc / desc で優先順と昇順/降順の別を指定します。

「レコード番号」と「リビジョンNo」の項目は自動で設定されています。Excel連携をダウンロードのみで使う場合は削除してもかまいませんが、アップロード(登録・更新)を行う場合は必要な項目です。

ここでは、例として、以下の修正を行うものとします。

- ・「作成者」項目を先頭に移動します。
- ・繰返し項目の繰返し数を修正します。
添付ファイルは1つの項目に複数登録できるので、繰返し項目となります。
一覧表でこれを横に、最大3つまで繰り返して並べることにします。
このため、「繰返し数」を「3」に修正します。
- ・ソート項目／ダウンロードフォルダ名の指定をします。
ここでは「作成日時」の古い順にソートして一覧を作りたいので、「作成日時」のソート項目欄に「1asc」と記入しました。(ソートキーは複数設定でき、その順を1,2のように指定します。
ascは昇順、descは降順を意味します)
添付ファイルについては、規定値(C:%temp)のまま変更しないことにします。
- ・データ取得時に、部署名を入力させて絞り込めるようにしたいので、部署のキー項目に「KEY」を指定します。

また、データ更新時に、対象レコードをユニークに確定させるため、レコード番号のキー項目にも「KEY」を指定します。(あらかじめ設定されているのでそのままとします)

- ・表題を設定します。「連携シートに表示するタイトルを設定してください。」の欄に、表題を指定します。

以下が修正後の例です。(赤字が修正したところ)

連携シートに表示するタイトルを設定してください。									④添付ファイル項目は1ダウンロード先のフォルダ名。アップロードは連必要に応じて項目名称
日報									
アプリの項目情報									
並び1	並び2	項目名称	フィールドコード	項目タイプ	繰返し方向	繰返し数または区切り文字	KEY指定	添付ファイルソートキー項目(昇順: desc)	
2		作成日時	作成日時	CREATED.TIME				1asc	
3		部署	ドロップダウン	DROP.DOWN			KEY		
1		作成者	作成者	CREATOR					
4		活動報告	文字列、複数行	MULTI.LINE.TEXT					
5		目標達成度	ラジオボタン	RADIO.BUTTON					
6		ジャンル	ラジオボタン_0	RADIO.BUTTON					
7		タイトル	文字列、1行	SINGLE.LINE.TEXT					
8		アイデア	文字列、複数行_0	MULTI.LINE.TEXT					
9		添付ファイル	添付ファイル	FILE	列		3	C:%temp	
10		レコード番号	レコード番号	RECORD.NUMBER			KEY		
11		リビジョンNo.	\$revision	REVISION					

修正完了後は「アプリ情報編集完了」ボタンを押下して修正を反映させます。(忘れないでください！)

並び順を変更したり、項目を削除対象にした場合、このボタン押下で画面上にも変更が反映されます。

2.2.3 連携対象シートの生成

次に、データ移送先の、連携対象Excelシートを生成します。「連携帳票生成」ボタンを押下します。

楽々Excel連携ツール (V2.4) 【一覧用】										V2.40	
連携設定										連携帳票生成	
① 連携設定 kintoneへの連携パラメータを設定します。最初必ず1度は設定が必要です。(無条件作成と連携)										④ 連携帳票生成 完成した連携帳票をツールから切り出して別ブックに保存します。	
② kintoneアプリ情報取得 下記の通りに kintoneのアプリ情報を取得します。取得しない場合は連携帳票生成時にエラーとなります。										⑤ 連携帳票の出力 連携帳票の出力先を選択します。	
③ アプリ情報編集完了 アプリ情報編集完了後、連携帳票生成時にエラーとなります。										⑥ 連携帳票の出力 連携帳票の出力先を選択します。	
⑦ 連携帳票の生成 kintoneと連携するExcelシート(一覧シート)を生成します。										⑧ 連携帳票の出力 連携帳票の出力先を選択します。	
⑨ 連携帳票の出力 完成した連携帳票をツールから切り出して別ブックに保存します。										⑩ 連携帳票の出力 連携帳票の出力先を選択します。	
連携帳票(一覧)のシート名を変更する場合は、以下にシート名を入力してください。										ここにクリック！	
連携帳票に表示するタイトルを設定してください。											
アプリの項目情報											
並び1	並び2	項目名称	フィールドコード	項目タイプ	繰返し方向	繰返し数または区切り文字	KEY指定	添付ファイルフォルダ名(フルパス) またはソートキー項目(昇順: desc 降順: asc 数字を指定)			
1		作成日時	作成日時	CREATED.TIME							
2		部署	ドロップダウン	DROP.DOWN							
3		作成者	作成者	CREATOR							
4		活動報告	文字列、複数行	MULTI.LINE.TEXT							
5		目標達成度	ラジオボタン	RADIO.BUTTON							
6		ジャンル	ラジオボタン_0	RADIO.BUTTON							
7		タイトル	文字列、1行	SINGLE.LINE.TEXT							
8		アイデア	文字列、複数行_0	MULTI.LINE.TEXT							
9		添付ファイル	添付ファイル	FILE	列		3	C:%temp			
10		レコード番号	レコード番号	RECORD.NUMBER			KEY				
11		リビジョンNo.	\$revision	REVISION							

「一覧シート」に条件入力欄と、見出しが生成されます。

日報											
データ取得		部署		レコード番号							
登録／更新		絞り込み条件:									
作成者		作成日時		部署		活動報告		目標達成度		ジャンル	
コード		名前		作成日時		部署		活動報告		目標達成度	

楽々ツールにより、上のような一覧表の連携対象シートが生成されました。
 KEYと指定した項目が、絞込み条件として表示されています。
 ここで「レコード番号」は、更新時に必要となるキー項目で、データ取得時の絞込み条件として使用しないのであれば、空白で埋めて消してもかまいません。
 また、列の幅や、見出し、背景色、ボタンの位置なども自由に変更してかまいません。
 (項目の位置は、設定で定義されているので、変更しないでください)
 「レコード番号」「リビジョンNo」は利用者に見せなくてもよい項目なので、列を非表示にしました。

修正後の例

日報一覧表									
部署				データ取得		登録/更新			
部署名を入力して絞り込み: (開発、総務、人事、経理、法務、営業)									
作成者		作成日時	部署	活動報告	目標達成度	ジャンル	タイトル	アイデア	添付ファイル
コード	名前								(1) (2) (3)

2. 3 動作確認

以上で、一覧表へのkintoneデータ連携の準備ができました。さっそく実行してみましょう。

実際の業務で複雑な帳票を作成したりするには、VBAを作成してアドインをコントロールする必要がありますが、単に一覧表にデータを取得/更新するだけであれば、これだけで可能です。

2. 3. 1 kintoneデータの取得

対象シートの「データ取得」ボタンを押すと、アドインが実行され、シートにデータが取得されます。

日報一覧表									
部署				データ取得		登録/更新			
部署名を入力して絞り込み: (開発、総務、人事、経理、法務、営業)									
作成者		作成日時	部署	活動報告	目標達成度	ジャンル	タイトル	アイデア	添付ファイル
コード	名前								(1) (2) (3)
Administrator	Administrator	2011/09/14 16:34	開発	【本日やったこと】 ・コーディング ・作業計画策定会議 ・試験環境のメンテナンス	達成	その他	プレゼン	プレゼンに関する本を購入しました。 短時間で読める割には、内容の濃いものとなりました。	
Administrator	Administrator	2011/09/14 16:35	開発	【本日やったこと】 ・新製品試験 ・グループ会議 ・社内製品発表会 【明日やること】 ・試験引き継ぎの実施 ・10月度作業計画の策定 ・報告会	達成	IT一般	APIサンプルアプリケーション	こちらのページにAPIについていろいろと記述がございました。 なかなか参考になるかと思えます。 https://〇〇〇〇~	

※見やすさのため、列幅を変え、罫線をつけています。
 ※部署「開発」で絞り込みましたが、空白にすれば、全データが取得されます。

初期サンプルでは添付ファイルがありません。
 せっかくなので、何か添付ファイルを用意して、kintoneにログインし、「日報」アプリを開いて添付ファイルを追加してみてください。




ここをクリックしてファイル追加

ファイルの種類は何でもかまいませんが、ここではわかりやすいように画像ファイルを添付してみます。



ファイル名: member100.gif

登録後、再度「データ取得」を実行してみます。




日報一覧表									
部署				データ取得		登録/更新			
部署名を入力して絞り込み: (開発、総務、人事、経理、法務、営業)									
作成者		作成日時	部署	活動報告	目標達成度	ジャンル	タイトル	アイデア	添付ファイル
コード	名前								(1) (2) (3)
Administrator	Administrator	2011/09/14 16:34	開発	【本日やったこと】 ・コーディング ・作業計画策定会議 ・試験環境のメンテナンス	達成	その他	プレゼン	プレゼンに関する本を購入しました。 短時間で読める割には、内容の濃いものとなりました。	
Administrator	Administrator	2011/09/14 16:35	開発	【本日やったこと】 ・新製品試験 ・グループ会議 ・社内製品発表会 【明日やること】 ・試験引き継ぎの実施 ・10月度作業計画の策定 ・報告会	達成	IT一般	APIサンプルアプリケーション	こちらのページにAPIについていろいろと記述がございました。 なかなか参考になるかと思えます。 https://〇〇〇〇~	

登録した添付ファイルが、指定したC:\temp フォルダにダウンロードされ、画像がセルに貼り付けられました。(画像に隠れていますが、セルにはダウンロードされたファイル名が入ります)

注)ダウンロードされたファイル名には、どのレコードの添付ファイルなのかを識別できるように、レコードごとに重複しない付加文字列を付加することもできます。
付加文字列には、例えば社員番号のように、ユーザが設定シートで指定することができます。
(詳しくは、アドインマニュアルを参照してください)
※楽々シートで生成した場合、初期設定では、ファイル名に付加文字列はつきません。
同じファイル名のものが複数あった場合は、ダウンロード時に上書きされます。

2. 3. 2 kintoneデータの登録・更新

kintoneの「日報」アプリに登録されているデータを、「日報」Excelから一括更新してみましょう。
また同時に、Excelから新規にデータを登録することも可能です。

作成者		作成日時	部署	活動報告	目標達成度	ジャンル	タイトル	アイデア	添付ファイル		
コード	名前								(1)	(2)	(3)
Administrator	Administrator	2011/09/14 16:34	開発	【本日やったこと】 ・コーディング ・作業計画策定会議 ・試験環境のメンテナンス	達成	その他	プレゼン	プレゼンに関する本を購入しました。 短時間で読める割には、内容の濃いものとなりました。			
Administrator	Administrator	2011/09/14 16:35	開発	【本日やったこと】 ・新製品試験 ・グループ会議 ・社内製品発表会 【明日やること】 ・試験引き継ぎの実施 ・10月度作業計画の策定 ・報告書	達成	IT一般	APIサンプルアプリケーション	こちらのページにAPIについてのいろいろと記述がございました。 なかなか参考になるかと思います。 https://〇〇〇〇~ (間違いがあったので修正しました)			
			開発	【本日やったこと】 ・グループ会議 ・社内製品発表会の反省会を実施 【明日やること】 ・新プロジェクトの開発計画作成 ・立上審査会の依頼	達成	IT一般	APIサンプルアプリケーション	新規開発案件が発生しました。 開発計画を作成し、立上審査を行いますので、関係者のみなさんにご協力ください。			

修正

追加

「日報」シートから、更新しない行は削除し、更新する行だけを残します。
(全件更新してもかまいませんが、時間がかかる可能性があります)
ただし、途中に空白行があってははいけません。空白行は詰めてください。空白行は、データの終わりだと判断されます。




作成者、作成日時などは変更できない項目であり、更新できませんが、その他の項目で、変更内容をExcelシートに入力します。(空白にすると空白に更新されます)

新規のデータは、行を追加してそこに入力します。作成者、作成日時などはkintoneが付加するので、空白でかまいません。

添付ファイルもダウンロードした同じフォルダからアップロードされます。
添付ファイルを追加・変更したい場合は、セルにそのファイルをドライブ名からのフルパス名で指定します。(貼り付けられている画像は不要なので、削除してもかまいません)

登録・更新はどちらか一方だけでもかまいません。また1行だけでも、複数行でもかまいません。

一覧シートの「登録・更新」ボタンを押すと、アドインが実行され、kintoneにデータが登録・更新されます。

作成者		作成日時	部署	活動報告	目標達成度	ジャンル	タイトル	アイデア	添付ファイル		
コード	名前								(1)	(2)	(3)
Administrator	Administrator	2011/09/14 16:34	開発	【本日やったこと】 ・コーディング ・作業計画策定会議 ・試験環境のメンテナンス	達成	その他	プレゼン	プレゼンに関する本を購入しました。 短時間で読める割には、内容の濃いものとなりました。			
Administrator	Administrator	2011/09/14 16:35	開発	【本日やったこと】 ・新製品試験 ・グループ会議 ・社内製品発表会 【明日やること】 ・試験引き継ぎの実施 ・10月度作業計画の策定 ・報告書	達成	IT一般	APIサンプルアプリケーション	こちらのページにAPIについてのいろいろと記述がございました。 なかなか参考になるかと思います。 https://〇〇〇〇~ (間違いがあったので修正しました)			
			開発	【本日やったこと】 ・グループ会議 ・社内製品発表会の反省会を実施 【明日やること】 ・新プロジェクトの開発計画作成 ・立上審査会の依頼	達成	IT一般	APIサンプルアプリケーション	新規開発案件が発生しました。 開発計画を作成し、立上審査を行いますので、関係者のみなさんにご協力ください。			

再度、データ取得を実行すると、登録・更新された内容が確認できます。

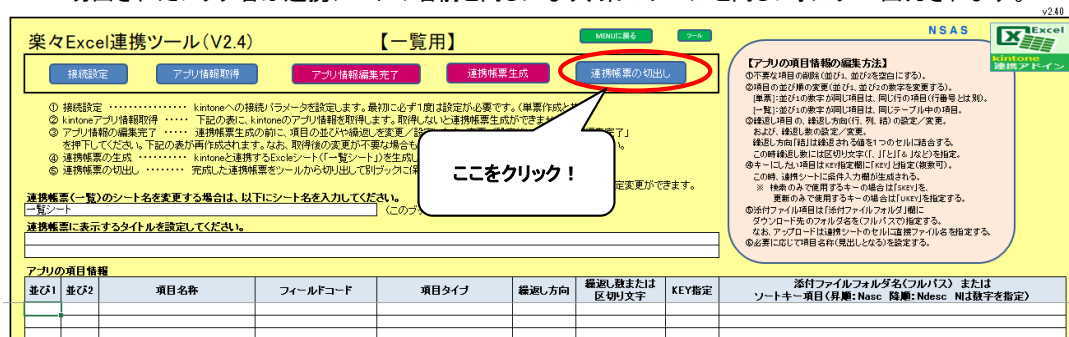
注)チェックボックス、ドロップダウンなどの選択項目は、アプリで設定した値だけが更新可能です。それ以外の値を入力した場合はエラーとなります。

「登録・更新」は、レコード番号をキーとして、すでにそのレコードがkintoneのアプリに存在するかを事前に検索し、あれば既存のデータをExcelデータで更新、なければExcelデータを新規登録します。Excelからデータを更新する前には、事前に最新データを取得してから変更を行う必要があります。Excel上のデータが最新でない場合（他から更新された場合など）、更新時にエラーとなります。

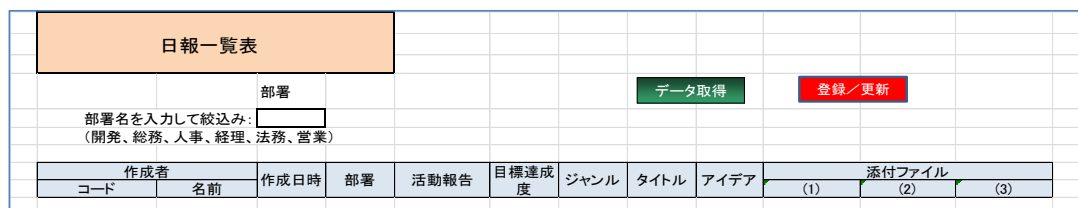
2. 4 その他補足

2. 4. 1 業務用ブックの切り出し

生成した連携シートは、楽々ツールから切り出して、業務用のExcelブックを作成することができます。エンドユーザへは、業務用に切り出したブックをコピーして配布すれば、誤操作を防ぐことができます。切出されたブック名は連携シートの名前と同じになり、楽々ツールと同じフォルダへ出力されます。



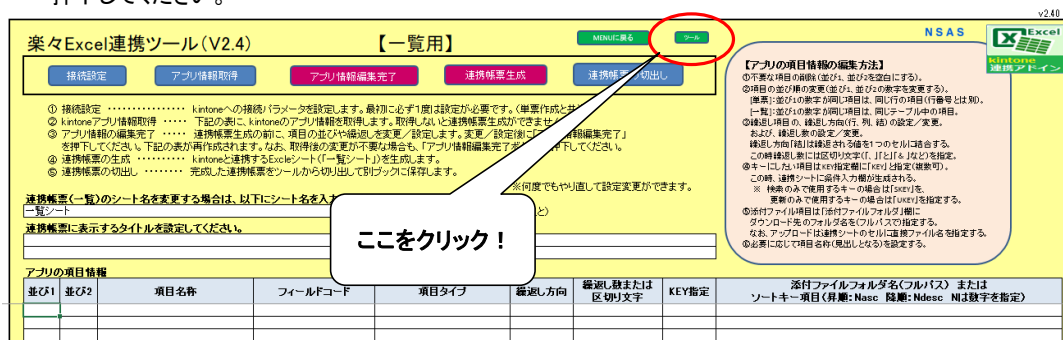
業務用ブックが別のExcelブックとして保存されます。



- ※ 業務用ブックには、楽々ツールの「MENU」「一覧生成」「単票生成」などのツールは含まれません。検索・登録／更新に必要な設定シート類は含まれますが、誤操作を防ぐため非表示となっています。
- ※ マクロは楽々ツールと同じものが含まれています。エンドユーザに変更されるのを防ぎたい場合は、開発のVBA画面で、VBAProjectにプロテクトをかけることができます。

2. 4. 2 ライセンスの確認

連携アドインのライセンスの登録状況を確認することができます。楽々ツールの画面を表示し（一覧用、単票用、どちらでもかまいません）、画面上方の、「ツール」ボタンを押下してください。



すると、下記のような画面がポップアップ表示されます（画面の内容は一例です）。



ライセンスキーが登録済みであれば、ご契約ユーザ名、ご契約状態、ご契約有効期限が表示されます。

また、アドインのバージョンと、インストールされている場所などの情報も表示されます。

2. 4. 3 VBAを使った高度な連携プログラムの開発

(1)基本の手順

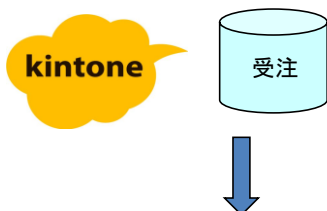
楽々ツールでは定型的な業務はノン・プログラミングで簡単に作ることができますが、さらに複雑で高度な処理をおこないたい場合は、独自にVBAでプログラミングする必要があります。
詳しくは、開発者向け資料にあるアドインマニュアルや、連携アドイン評価用サンプルをご覧ください。

基本的な手順としては以下の流れになります。

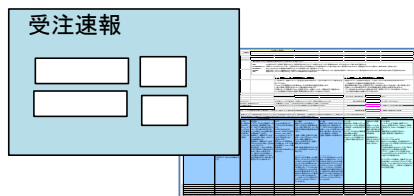
- ①開発するExcelシートのイメージと、それに対応するkintoneアプリを検討する。
- ②kintoneにアプリを登録する。
- ③アプリの項目との対応を考慮しつつ、Excelシートを作成する。
- ④作成したExcelシートに、アドインのマクロのつかない設定シート(原紙)をコピーする。
(設定シートの原紙は「開発者向け資料」にあります)
- ⑤楽々ツールでアプリから項目情報を取得し、不要項目の削除や並び順の変更を行う。
- ⑥楽々で生成された設定シートの内容を、開発するExcelの設定シートにコピーする。
楽々ツールでは設定シートは非表示になっています。これを再表示した上で、内容をコピーします。
楽々ツールを使わずに、一から手入力で設定シートを設定してもかまいませんが、
楽々ツールを使えば簡単に基本の設定ができます。
- ⑦開発する業務に合わせて、設定シートの内容に手入力が必要な修正を加える。
- ⑧ExcelのVisual Basic Editorを開いて、参照設定にアドオンを追加し、プログラムを作成する。
- ⑨プログラムのテストを行う。
- ⑩正常に動作するなら、設定シートを非表示にした上で、利用者に提供する。

(例)

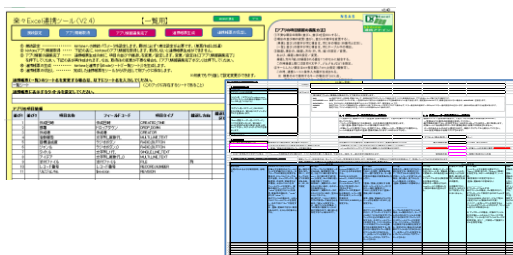
①②kintoneアプリの登録



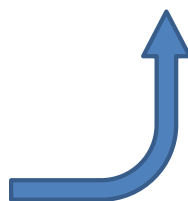
③業務のExcelシート(マクロ可)を作成



⑤楽々ツールを使ってアプリの情報を取得



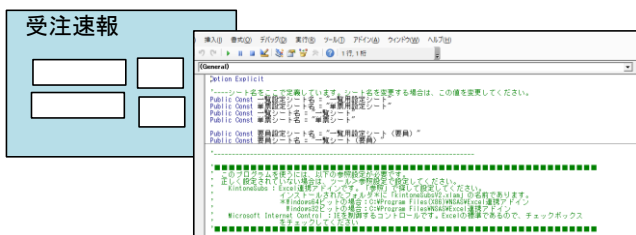
④同じブックに、設定シート(原紙)をコピーしておく



⑥⑦楽々の設定シートの内容をコピーし修正

楽々ツールに生成された設定シート(非表示なので再表示する)

⑧開発→Visual Basicを開いて、マクロモジュールを開発する



Excel連携アドインを参照設定することにより、開発したモジュールの中からアドインの機能を利用することができる

※ 詳しくはExcel連携アドインマニュアルを参照のこと

(2) 複数アプリとの連携

楽々ツールでは、同時に連携できるアプリは、接続情報設定で指定するアプリIDの1つだけです。
複数のアプリを業務で同時に連携したい場合は、Excel VBAを使ってプログラムする必要があります。

1つのアプリは1つの設定シートに対応しています。(1)の手順で、楽々を使って1つ目の設定シートを作成します。次に、接続情報のアプリIDを変更して、新たな設定シートを作成します。

これらの設定シートをアドインの関数を呼び出すときに使用します。

※ 設定シート名はアプリごとに変更が必要です。

※ 設定シートには、対応する連携シートのシート名が入っていますが、これも変更が必要です。

※ 楽々ツールを使わずに手作業で設定シートを作ってもかまいません。

kintoneアプリからデータを取得するアドイン関数は、以下のように利用します。

(詳しくは「アドインマニュアル」を参照のこと)

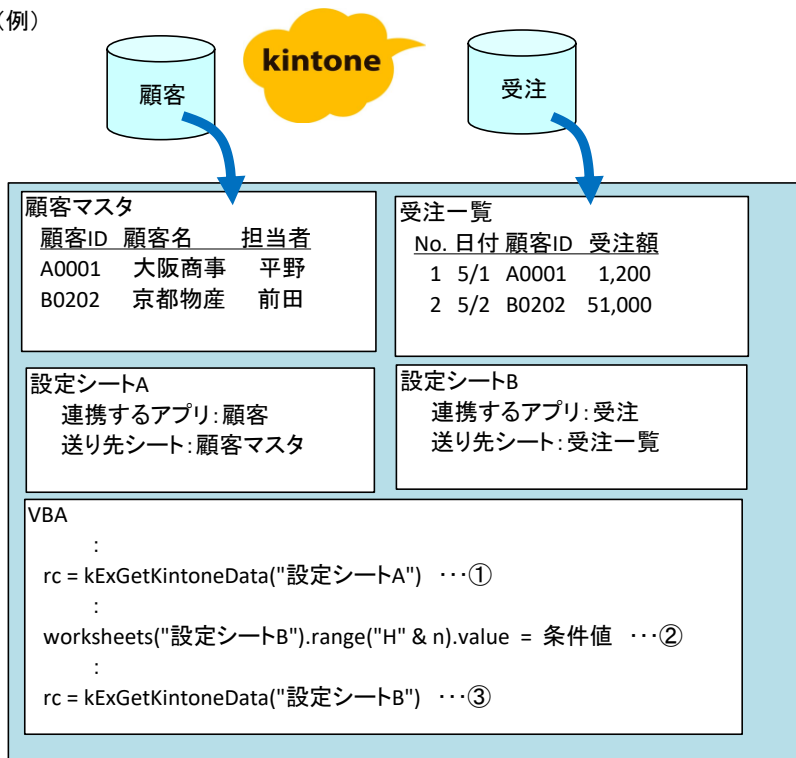
```
rc = kExGetKintoneData("設定シート名")
```

rc はlong型の変数で、正常に取得できたかどうかの結果が返ります。

0なら正常に取得できており、-1なら取得したデータが0件だった(検索条件があれば、それに合致するデータが存在しなかった)、-9なら何らかの致命的エラーが発生したことを示します。

引数には、文字列型で、設定シートのシート名を指定します。これを変えることで、複数のアプリからExcelにデータを取得することができます。

(例)



①で「顧客マスタ」シートへ、顧客データを取得する

②で「受注」の検索条件を、設定シートの該当する項目(日付など)のキー値の列に設定する

③で「受注」シートへ、受注データを取得する(設定した条件で検索される)

その後、「受注」シートの顧客IDから、取得した「顧客マスタ」を参照して顧客名を設定するなど、業務用のシートをVBAや関数を使って編集する

※ これは単純化した一例です。上記のようなマスタ参照を実現するだけなら、kintoneのルックアップ機能を使った方が簡単に実現できます。